

# AFP Exchange

## 14th Annual Compensation Survey

日本CFO協会が提携しているAFP（米国財務プロフェッショナル協会）は米国の財務プロフェッショナルを対象に報酬実態調査を毎年実施している。ここでは、その一部をご紹介します。今回の調査は2001年度の実績をもとに2002年に調査を行ったもので、データの調査結果の詳細（AFP発行の情報誌「AFPExchange」の記事PDF）は、会員専用サイトにてご覧下さい。  
<http://www.cfo.jp>

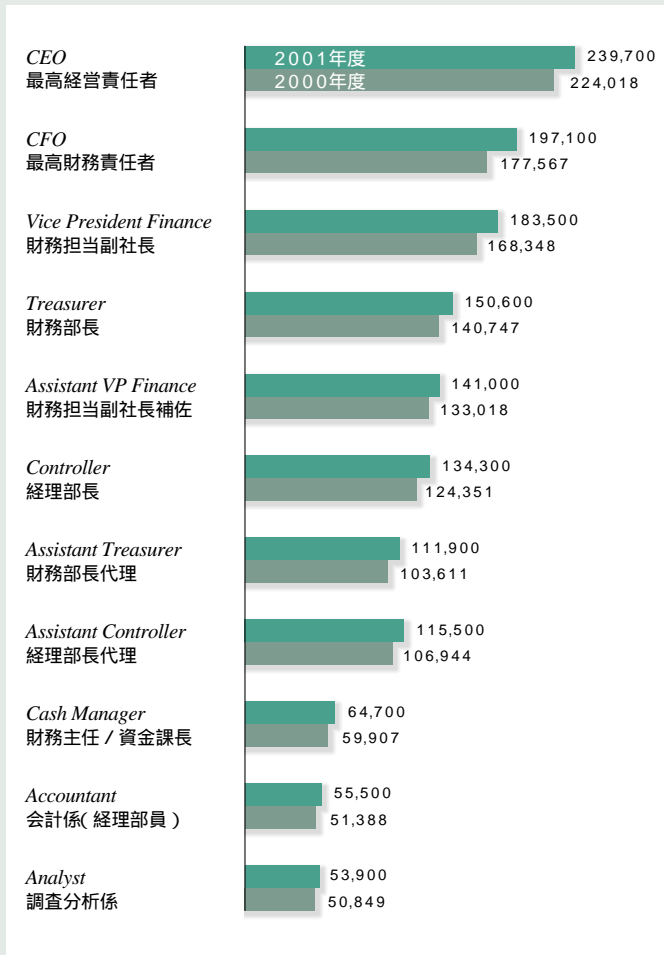
## 米国における財務部門の報酬実態調査（AFP実施）

### 財務プロフェッショナルの高い報酬

不況に転じた米国景気にもかかわらず財務プロフェッショナルの報酬額は大幅に増加した。平均報酬増加率8%はほかの部門のほぼ2倍だ（米労働省労働統計局調）。CFOの報酬額は19万7千100ドル、前年比11%の伸びとなった。トレジャラー優位の図式は変わっていない。

景気後退下でも財務プロフェッショナルが依然として高い処遇を受け、多くが昇進・昇給を果たしている。特にCFOの昇給率は最も高く（11%）次いで財務担当副社長（9%）となっている。財務プロフェッショナルの頂点に立つCFOの処遇はCEOに匹敵するほど高い。AFP（米国財務プロフェッショナル協会）のCEOのジェームス・ケイツ氏も「景気が悪化しているなかでも、米国のCFOの報酬は高水準。それは責任や期待も大きいことの裏返しだ。取締役会、株主、市場など様々な圧力が高まっている」と日本経済新聞社のインタビューで語っている。

図表1 財務部門の平均報酬（単位：米ドル）



財務部長であるトレジャラーと経理部長であるコントローラーの報酬比較では、トレジャラーがコントローラーを上回っており、企業価値向上を担う財務プロフェッショナルは手厚く処遇という図式は変わらないようだ。日本企業においても企業価値向上が重要な経営課題となっており、米国と同様財務プロフェッショナルの処遇が高くなる流れも変わらないだろう。

### 公開企業で高いCFOの処遇

公開企業の場合と未公開企業の場合の報酬の差がいちばん大きいのがCFOだ。

公開企業のCFOの報酬額は未公開企業のCFOの報酬額を平均10万ドル上回っている（図表2）。トレジャラーおよびアシスタント・トレジャラー、キャッシュ・マネージャークラスの報酬額では両者はほぼ拮抗。市場への対応という大命題を負っている公開企業においてこそ、CFOに求められる責任と期待は大きい。処遇条件もきわめて高くなっている。

図表2 公開・未公開による報酬額（米ドル）

